

ウィルフレッド ホフマン ドイツ人社会学者 外交官 (前半)

:

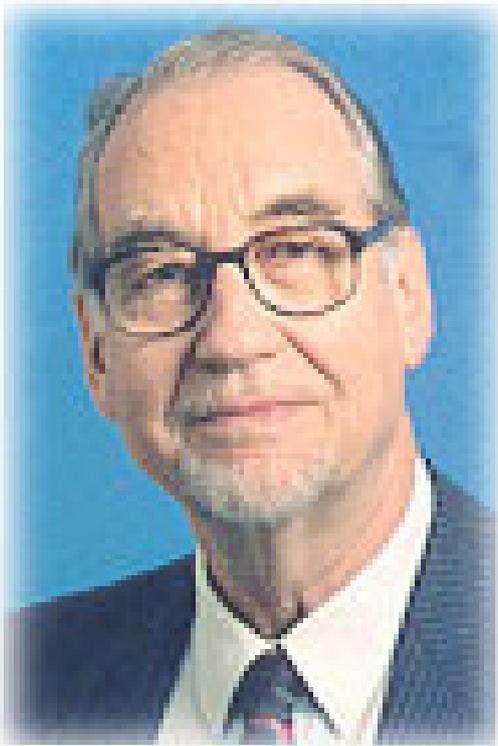
明:元アルジェリア大使のドイツ人外交官による改宗 。第一部。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 著名人](#)

より: ウィルフレッド ホフマン

FB1 Aug 2015

集日 06 Sep 2015



ドイツ人の社会学者 外交官であるホフマン博士は、ハバドロ スクールで博士号を取得し、1980年にイスラ ムに改宗しています。

ホフマン博士は、ドイツでカトリック教徒として1931年に生を受けました。彼はニューヨークのユニオン カレッジを卒 、1957年にミュンヘン大学で法学博士号を取得しました。

。

彼は行政手続き改革における研究の助手となり、1960年にハーバードロースクールから法学修士号を取得しました。彼は1983-1987年の、ブリュッセルのNATOで情勢をめぐり、1987年にアルジェリアのドイツ大使として任命され、次いで1990年にモロッコ大使を4年を務めました。また1982年にウムラ（小巡礼）を行い、1992年にハッジ（大巡礼）を行っています。

ホフマン博士によるイスラム改宗は、いくつかのことがなっています。そのうちのひとつに、ドイツ大使のアルジェリア大使として任命された1961年当時、8年に渡って行われていた、アルジェリア独立のためのフランスとアルジェリア国家による血なまぐさいゲリラが起られます。そこで彼は、アルジェリア国民が被った残虐な殺戮を目の当たりにしました。毎日、十数人もの人々がアラブ人だというだけで、あるいは独立を主張しただけで「至近距離からの射撃方式」で殺されていました。「私はこの苦難におけるアルジェリア人の忍耐と誠実性、ラマダン月における倒置的な自制心、勝利に対する自信、また惨めな状況の中での人情を目撃した。」彼らにそうさせているのは宗教に他ならないと彼は感じ、彼らの典であるクルアーンを研究し始めました。「私はその日以来、一日も欠かさずそれを見ている。」

ホフマン博士のイスラム改宗における第二の発見はイスラム美術でした。彼は幼い頃から芸や美術、バレエなどに心を示していましたが、強烈な魅力を受け取ったイスラム美術を知ったことにより、それらすべてへの興味が失った程でした。イスラム美術について彼はこう言います。「その秘密は道、アラベスク装飾、カーペット式、モスクの家屋建築、都市などの芸術的表現の中に、宗教としてのイスラムが普遍的な存在感として潜んでいるように思えた。いかなる神秘主義も吹き飛ばしてしまうようなモスクの軽やかさ、建築の民主的精神からも考えさせられた。」

「また、内省的志向のあるムスリム宮殿、そして日や水、小川に恵まれたとされる天国への希望、共同体の精神を育む健全な社会的機能を持ち、秩序を整える古い大都市地域（メディナ）、また市の透明性、モスクの調和と周辺地域の福祉施設、また市や住宅地での学校や寄宿の確保についても考えさせられた。私は多くの所でこの上なく素晴らしいイスラム的発見をした。イスラム的調和、イスラム的人生、そしてイスラム的な空の概念は、心と精神

に疑いの余地なき影 を与えるのだ。」

彼による真理の探求において、おそらくそれらすべてよりも大きな影 を与えたのは、キリスト教の 史と教 についての 底した知 でした。彼は、信心深いキリスト教徒が信じているものと、大学で 史の教授が教えていることに大きな相 があることに 付きました。彼は特に、 史的イエスの教えよりも、パウロが 立した教 を教会が 先して 入したことについて重大な 念を持っていました。「イエスに一度も会ったこともなかった彼（パウロ）は、その 端なキリスト神学をもって、正しいユダヤ キリスト教的キリスト を きたのだ。」

彼は人 が「原罪」というものを背 わされているという概念や、神が自らの被造物を救うために自らの子を拷 させ磔にさせたということを受け入れることができませんでした。「私は、神が自らの 造に失 するという、つまりアダムとイブが元凶とされるのために子をもうけ、命の 牲という血なまぐさい方法をとることなしに何もできないということ、そして神が自ら 造した人 のために苦しむということがいかにとんでもない、冒 的であるということに 付き始めたのだ。」

彼は神の存在という、至 基本的な疑 に立ち返りました。ウィトゲンシュタイン、パスカル、スウィンバ ン、カントなどの哲学者らによる著作を分析した彼は、神の存在にする理知的 信に至りました。その次に彼が 峙した 理的疑 は、いかに神が人 を くために彼らと意思 通するかということでした。それにより、彼は 示の必要性を するに至ったものの、ユダヤ キリスト教、もしくはイスラ ムの 典のどちらに真理があるのかという疑 が残ります。

その疑 に して、彼は次のクルア ンの章句から答えを得ました。これは彼にとって第三の重要な となったのです。その章句は彼の目を まし、ジレンマを解消する答えを与えました。それは「原罪」という概念と、 人による「仲介」の みを否定し、その重荷から彼を解き放ったのです。「ムスリムは 者や宗教的 が存在しない世界に住んでおり、ムスリムが祈るときはイエス、マリア、その他の 人を介して祈るのではなく、完全に解放された信仰者として、直接神に祈るのである。そしてこの宗教は神秘といったものとは である。」またホフマン博士は、「ムスリムとは自由かつ卓越した信仰者のこ

となのである」と述べています。

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/124>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。